

教科		選 定 理 由
各学科に共通する教科（共通教科）	国語	内容が生徒の実態に即し、教科の目標を達成するのに適合しているため。
	地理歴史	基本的内容から応用的内容までバランスよく盛り込まれており、一般常識的な情報から受験に向けての内容まで幅広く学ぶことができる。 生徒の興味関心も喚起しやすく、分量も適切であるため。
	公民	内容の程度・分量が適切であり、内容に応じた資料が教科書にわかりやすく掲載されており、生徒の実態に即しているため。
	数学	生徒の状況に教科書の例題、問題の難易度が適しているため。
	理科	本文、図表、表現等が正確であり、内容が教科・科目の目標に適合している。 また、内容が系統的であり、配列や関連づけも適切である。
	保健体育	教科の目標に適合しており、生徒の実態に即し、適当である。
	芸術	表現、技法等生徒の実態に即している。
	外国語	以下の2点を総合的に判断して決定した。 ①基礎・基本の定着を図ることができ、なおかつ発展的な内容を含むもの。 ②内容が理解しやすく、生徒の興味・関心を引くと思われるもの。
	家庭	図表が読み取りやすく、生徒の実態に合った内容である。
	情報	本文、図表、表現等がわかりやすく系統的に記述されており、分量も適当である。内容は教科・科目の目標に適合し、教科の目標を達成するよう、適切な創意・工夫がなされている。
主として専門学科において開設される教科（専門教科）	農業	
	工業	
	商業	本文、図表、表現等がわかりやすく系統的に記述されており、分量も適当である。内容は教科・科目の目標に適合し、教科の目標を達成するよう、適切な創意・工夫がなされている。
	水産	
	家庭	図表が読み取りやすく、生徒の実態に合った内容である。
	看護	
	情報	
	福祉	